

## 令和5年度 第2回 ふくいの食育・地産地消推進県民会議 会議録

1. 日 時 令和6年2月27日（月）10：30～12：00

2. 場 所 福井県庁 B1F 正庁

### 3. 議事

(1) 「第4次ふくいの食育・地産地消推進計画」(案)について

県より計画案について説明

(2) 食育・地産地消の推進に係る各団体の取組み状況等について

各団体より取組状況を説明

(3) 質疑応答

参加団体からの主な意見は以下のとおり

- ・食育や地産地消は農林水産部として横の連携を取りながらやっていかないと課題の解決は難しい。部全体として情報共有していけば、それぞれの問題がどこにつながっているかが見えてくる。
- ・コロナ禍前は、関連会社で県産品を使った料理教室を行っていたが、今は休止している。県主催で県産品を使った料理教室を行っていただきたい。また、北陸新幹線が福井にも開通するため、大阪市場だけでなく、東京市場にも福井県産の青果物が届くような取組みを考えていただきたい。
- ・せっかく福井駅前に恐竜などが設置されているので、野菜を持たせるなど奇想天外なこともやってほしい。
- ・「直売所や小売店を通じた地産地消の拡大」について、小売店にどんどん地場産食材を出していくと良いと思っているが、市場に安定した量が入ってこない、学校給食にも地場産食材を出すことは難しい。市場は商品もお金も情報もスムーズに流れる場所だと思っている。地場産食材を沢山作っていただいて、市場に安定した供給がないことには、県外産に頼らざるを得ない。
- ・人数が少なくなってきている小中学校が非常に多く、できることも年々限られてきている。また、各小中学校の学区での農林水産資源もそれぞれ違うため、水田地域では水田の体験しかできない、海際の地域では水産業の体験しかできないという状況もある。小中学校での食育体験というのは、食に興味がない家庭の子どもたちにも情報を伝えられるという点で非常に意味があるので、引き続き、小中学校での体験は続けていただきたい。
- ・福井県として訪日外国人を呼び込むために、SNSやインフルエンサーを活用していると思うが、特に中国人向けのSNSを活用してはどうか。愛媛県が活用して外国人観光客を呼び

込むことに成功している。事前にSNSで調べて旅行する人が多いため、SNS等が充実することでより福井県の魅力が広まるのではないかと。

- ・歯が悪いと美味しく食べてもらえない。歯の健康増進にも留意してほしい。美味しいものを美味しく食べてもらうためにも1本1本の歯を大事にしてほしい。
- ・福井市が出している「ふくいのお恵み」という冊子に50社以上の加工品が掲載されているが、説明を読むとほとんどが福井県産の食材を使用している。今後新幹線が開業して、県外から観光客などがきたときに、福井県のお土産品について説明ができるよう県民が食べてみるのも大事。ただ、お土産品は道の駅等には売っているが、普段利用するスーパーにはあまり置いていない。スーパーなどにも福井県のお土産のコーナーがあって、食べてみる機会があると、県外の人にも県産食材の美味しさを伝えることができるようになる。
- ・団体として子どもたちや働く世代に対する啓発活動を行っており、小中学生の保護者など若い世代の人に多く参加してほしいと思っているが、なかなか人集めが難しい。保護者の方々も忙しいとは思いますが、何か協力いただけることがあれば教えてほしい。同じような活動を行っている他団体の知恵も借りながら、これからも活動を続けていきたい。
- ・エシカル消費の推進に取り組んでいるが、まだまだエシカル消費が何かわからないという人が多く、店にもエシカル消費という言葉が中々出ていないため、どこで売ることが分らない。年に1、2回でもいいからエシカル消費に取り組んでいただけるよう活動している。
- ・コロナ禍前は、学校給食の地産産食材が32品目だったが、現在は材料費高騰の影響で25品目となっている。県も市町と連携をとっていただいて、さらに品目数が減らされることはないように、予算付けをお願いしたい。